

2014 年度夏季海外研修（韓国語・韓国文化コース）研修レポート

総合政策学部 Kさん

私は8月31日から9月21日までの3週間、韓国ソウル市の回基にある、慶熙大学校に通い韓国語を学んできた。私は初めての飛行機、そして初めての海外だったので、緊張とわくわくが入り交ざったようなそんな感じの気持ちだった。私が韓国に行こうと決めたのは、おやの勧めがあったからだった。夏季休業期間をなんとなく過ごすより、韓国へ行くほうが充実した時間を過ごせると思った。

まず授業について、授業はすべて韓国語で行われた。クラスはテストの結果によって分けられた。テストは思った以上に難しく単語をまったくわからない為、文章が書かれた問題を渡された時は頭が真っ白になった。問題が解けないことを伝えると、初歩かやるクラスになると言われ、テストは終わった。クラスには、イギリス人、シンガポール人、香港人、中国人、台湾人、日本人と他のクラスに比べていろいろな国が集まったクラスだった。最初は文字を習うことから始まり、出身地の会話、どこに行きたい、などの会話の練習をした。名前を覚える為に、机に名前を書いた紙をはり、ゲームをしたりした。コの字に机を並べていたので、まえに出て会話を披露したりしました。先生が二人とも優しく丁寧に、ジェスチャーも加えながら授業を進めてくれたのでとてもわかりやすかったです。授業でやった内容は Grammar の教科書でページを指定され、宿題もだされるのでその日のうちに復習をすることも出来ました。

次にご飯について、寮ではご飯が出ないので、毎回でかけて外食をするか、買って学校・寮で食べるかの生活でした。回基は学生街なので安いお店がたくさんありました。焼肉・パッピンス・パジョン・レンミョン・チョッパル・ピビンパ・チャジャンミョン・プデチゲなどなど、、おいしい韓国料理をこの3週間でたくさん楽しむことが出来ました。おすすめは、回基にあるパジョン通りのお店。パジョンはチジミのようなものですが、韓国のもとはとても大きく分厚く3人で1枚食べるちょうどいいくらいです。揚げ焼きなので、とてもカリカリしていて、とても美味しかったです。甘いものでは、パッピンスがおすすめです。パッピンスは韓国式のカキ氷です。パッピンスのお店ではソルビンというお店のきなこのパッピンスと、チーズケーキのパッピンスがとても美味しかったです。韓国に行ったら絶対食べるべきだと思います。どこのお店に入っても食べても美味しかったので毎回どのお店に行くか迷っていた。

次に自由時間のことについて書きたいと思う。基本的に授業は13:00に終わるので、自由時間が十分にあった。チュソクという韓国のお盆があり、学校が休みの日もあったので、買い物に行ったり、観光したりしました。チュソクの日には、ロッテワールドという遊園地に行きました。入場入り口に人が並んでいた。久しぶりに遊園地に行ったのでとても楽しみだった。私は絶叫系の乗り物が最大の苦手なので体の疲労感が半端ではなかった。1番最初に乗ったのが、よくある船の左右に大きく揺れ体がフワッと浮く感覚になるもの。怖すぎて、生命の危機を感じた。それに似たような、回りながら左右に揺れるやつも乗った。海が近くにあったので、放り出されると思った。恐怖でしかなかった。ジェットコースターにも乗り、ありえないほどのスピードで進み、1回転するのでそれも怖かった。友達が平気なひとだったのでついていくのが辛かった。最後にメリーゴーランドみたいなののにのれたのでよかった。

不安も多い韓国研修だったけど、クラスの人たちとも仲良くなれたし、一緒に行った県大生の人とも仲良くなれてよかった。また韓国に行ければいいと思った。

私は韓国に全く興味がなかった。好きな歌手もいなく、辛いものが苦手である。最初に私が持っていた韓国のイメージは『日本とは犬猿の仲』というイメージであった。そのため、私自身、韓国に関わって生きていくことは絶対にはないと思っていた。

そんな私に転機が訪れた。2年生の前期履修登録の日だ。2年生になったら嫌でも第二外国語を取らなければならないのだが、何でもよかったので、友達に誘われて韓国語を取った。初めて受けた韓国語の授業はとても面白く、韓国語にハマってしまったのだ。文法も日本語とほぼ一緒なので覚えやすい。

前振りはこちらまでとして、ここからは韓国研修の内容について書いていこうと思う。

【クラス分けテスト】

まず、クラスを初級から上級に分けるテストが行われる。私はこのテストが選択問題だと思っていた。そしたらどっこい、韓国語でテスト問題が書かれていて、韓国語で文章を書くという超難題であった。問題文を読むので精一杯だった。スペルもあやふやで文字を埋めることしかできなかった。

次に口答試験があった。試験官の人はかなりたくさんいた。質問も試験官によってバラバラである。試験は韓国語で行われる。たまに日本語を使ってくれる人もいるそうだ。

私の試験官は「自分のことを話してください」と、ただ一言言い放った。私は固まってしまった。「今何時ですか？」とか「好きなことは何ですか？」というような、疑問形の質問を予想していたので、日本の韓国語授業で習った初歩的な自己紹介しかできなかった。

もう少し日本で韓国語を勉強していればよかったと感じた。

【授業】

授業は1コマ50分で4コマまでである。前半の2コマがリーディングで、後半がスピーキングだった。朝の9時から13時までのため、朝の弱い私にとっては早起きがとてもつらかった。

すべて韓国語の授業であったが、先生はジェスチャーや簡単な韓国語を使いながら分かりやすく教えてくださるので、意味を理解することはできる。しかし、一瞬でも気を抜くと分からなくなってしまう。集中して授業を受けていると、50分間がとても短く感じた。

座学だけでなく、ゲームもした。韓国語での旗揚げゲームや、飲み会の席でよく行われるゲームを教わった。とても楽しいものであった。

【文化授業】

週1~2回程度の割合で午後の2時から4時まで文化授業が行われた。内容は韓国の『礼儀作法』『歌』『ドラマ』『遊び』である。

その中でも、礼儀作法では、韓国と日本の違いについて学んだ。日本ではお茶碗をもって箸でご飯を食べるが、韓国ではお茶碗を置いたままスプーンでご飯を食べるのが一般的である。また、お酒を飲むときも、目上の人がいるときには横を向いて飲むのが礼儀なのだそうだ。文化にこのような違いが見られるのは面白いことだと感じた。

【現地学習】

1回目の現地学習では利川陶芸村と民族村へ行った。陶芸村では自分のイラスト入りコップ、湯のみ、お皿を作製した。みんな個性がにじみ出ている。湯のみは電動ろくろを使って作った。私はこの電動ろくろを使うことが夢だったので、まさか韓国でできると思わず、陶芸家になった気分をやった。とても気持ちがよかった。

民族村では昔の韓国の風景を見ることができる。多くの外国人が観光に来ており、にぎわっていた。ロケ地としても有名だ。公演場では綱渡りをしていて、ひやひやしながら見た。

2回目の現地学習ではNソウルタワーとナンタと景福宮へ行った。Nソウルタワーはスカイツリーに似たもので、上から景色を楽しめる。エレベーターがすごかった！夜に見たらもっと綺麗なんだろうなと思った。

ナンタは料理の道具を音楽に合わせて叩いたり、投げたりするショーである。お客さんをステージの上に乗せたり、観客と足踏みや手拍子を一緒にしたりするので私たちも動いて楽しめた。ストーリーがちゃんとあって、韓国語が分からない人でも楽しめるのでおすすめである。出演者も日によって違うので、また見たいと思った。

景福宮はとにかく広かった。広すぎて、すべて見るができなかった。

去年はロッテワールドに行ったらしいが今年はなかった。年によって現地学習の場所は異なる。

【トウミ】

慶熙大学にはトウミというチューター制度がある。自分のトウミが誰かは会う時まで全く分からない。私のトウミは同じ年の女の子だった。日本語が全く話せない子だったので、簡単な韓国語で話したり、携帯の翻訳を使いながら話したりした。4回あったのだが、会うたびに携帯を使う回数が減っていき嬉しかった。一緒にチキンを食べたり、漢江へ行ったり、学校が主催しているカジノをしたりして楽しんだ。

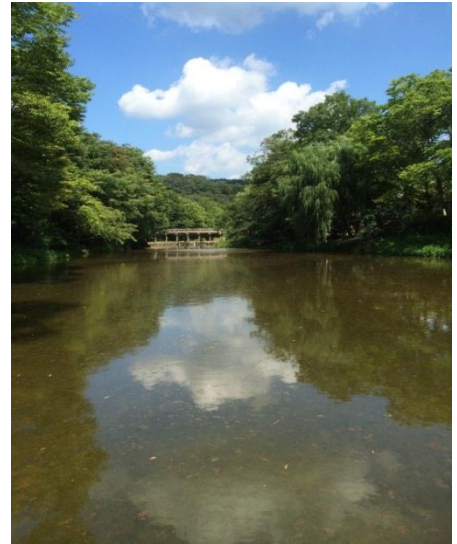
一緒に過ごせる唯一の韓国人だったので、会う時間を大切にした。日本のお土産にはお菓子を持って行った。とても喜んでくれた。

【自由時間】

土日は基本授業がなく、午後も文化授業のない日は何もないので自由時間はかなりたくさんあった。地下鉄がものすごく安いので、時間があるとすぐに出かけた。

最初はお店などに行ったとき、韓国語で話すのが不安で友達に頼んだり、日本語で話したり(通じないのに)した。でも、積極的に話しに行ったほうがいい。その方が練習にもなるし、たとえ間違っていたとしても何も責められることはない。陽気な定員さんも多かった。電車の中にいるとき、日本語で話していると、「日本人？」とおじいちゃんが話しかけてきて、「私日本語ちょっと話せるよ～」と盛り上がったこともあった。韓国には冷たい人が多いと思っていたが、そんなこともないということが行って分かった。

韓国の焼き肉は安い。週に4回は焼き肉をしていた気がする。また、パップンス(かき氷)がものすごくでかくておいしい。氷がふわふわしていて、お風呂上がりに食べるパップンスは最高であった。



【その他】

Wi-Fi は学校にも寄宿舎にもあり、お店でもあるところはあるのでルーターを借りなくてもいいかもしれないが、やっぱりあったほうが便利だと思う。韓国に行ってからでも空港で借りることができるし、その方がギガ数の制限もなく安く済む。今回は初めての海外旅行でインターネット事情が分からなかったのが借りなかったが、次行く機会があったらぜひ借りたい。

それから、韓国でも虫に刺されるのだが、それがものすごくかゆい。出かけるときには虫よけスプレーしたほうがいい。ムヒは必需品である。

今回の研修では韓国の秋夕(日本でいうお盆)と時期が重なり、3日間の休みがあった。その期間はほとんどの韓国人が実家に帰りお墓参りをするため、お店なども休業するところが多い。ごみの回収も休業になるのかからないが、その期間は道にごみ袋が重なって異臭がすごかった。

【まとめ】

今回の研修で感じたのは、韓国は「ゆるい」「自由」な感じが強いなということだ。最初は韓国語も全く話せないし、不安も多かったのですが大丈夫だった。同じ学校の人がいるというのが何よりの安心感だった。

韓国人とはどんどん話すべきだと思った。せっかく現地に行ったのに現地の人と話さずしてどうするのだ！という感じだ。もちろん話すためには基本的な韓国語力は必要ですが…。韓国人とあまり話せなかったこととチョッパル(豚の足)を食べられなかったことが、今でも悔やまれる。

夏休み期間ということもあり、ほとんどの研修生が日本人であった。なので、福岡や京都、新潟などたくさんの人と知り合うことができた。それも大きな収穫である。

この3週間、とても貴重な体験ができた。韓国研修に行かせてくれた両親には感謝している。長くなったが、本当に行ってよかった。

私は、今回の語学研修で語学はもちろんのこと、文化や人など多くのことを知ることができた。三週間という短くも濃い時間を振り返ってみる。

初めに今回のメインである韓国語の授業である。私は、ビギナーのクラスに割り振られた。ビギナー1のクラスではハングルの読み方から始まり、それと平行しながら単語、文法、ライティング、リスニングを行っていくという授業の進行だった。時間は五十分1コマで、一日に4コマの構成だった。1コマ2コマと、3コマ4コマでは先生は変わった。最初のハングルを学ぶための基礎知識の構築の授業は、ついていけるものだったが徐々に、文法やライティングが入ってくると、韓国語での説明をうまく聞き取ることができずに、苦勞した。先生方で分かりやすく身振りや、イラストを適宜書いてくれる場面が多々あったので、授業についていけなくなるということはなかった。クラスの人数は十人くらいと、少人数なので質問などはしやすい環境だった。また先生方も、英語と日本がとてもうまくコミュニケーションをとることは、難しいことではなかった。クラスの人たちも、日本人だけではなく、イギリスやシンガポール、中国や香港などさまざまな国籍の人たちがいて、とても楽しかった。韓国を学ぶためにいったのではあるが、そうした人たちと交流できることはとても有意義であった。また授業もハングルを学ぶだけではなく、文化を学ぶ時間も設けられていた。その時間では、韓国の遊びを行ったり、ドラマから韓国の文化を知ったり、礼儀作法を学んだり、教科書からだけではなくそうした活動から学ぶ韓国語は、今でも脳裏に残っている。

次に文化や歴史についてである。ソウル市内には多くの観光名所があった。印象に強く残っているのは、メジャーではあるが景福宮である。もともと私が韓国の歴史に興味があったということ無しにしても、素晴らしいところだった。何が素晴らしいかというと、圧倒的な広大さである。広い敷地の中に、さまざまな役割を割り振られた建物が、密集することなくゆとりをもって建っている。建物も細やかな装飾が施され、決して派手なわけではないのだが、目を惹き付けられるものだった。また、文化のひとつとして考えられる食べ物についてである。食べ物は何を食べてもとても美味しいものばかりだった。ビビンバや焼肉、汁物思い出すともう一度食べたいものばかりである。韓国の料理で驚きだったのは、付けあわせで出てくるキムチやちょっとしたおかずをだすという習慣があることだった。それはもちろん料金には含まれることなく、無くなればおかわりまですることができるのである。日本のもてなしも素晴らしいものだと思うが、韓国のもてなしの仕方、日本に負けず素晴らしいものと思った。

最近の韓国と日本の状況はいいと呼べるものではないだろう。しかし、あくまでも国レベルの問題であるということ、忘れてはいけないことだと思う。私は今回ほんとに多くの韓国の方によくしてもらった。つたない韓国語で道を聞けば親切に目的地まで教えてくれたり、ご飯を食べているときには気さくに声をかけてくれたりと、とても優しかった。私は今回本当の韓国を知ることができたと考えている。生きた語学を肌で感じることができ、韓国の素晴らしさを、身をもって分かることができたことは、一生の財産になるといえる。この三週間はこれからの生活の中で活かしていきたいと考える。

8月31日から3週間、韓国へ語学研修に行ってきました。私たちは、キョンヒ大学の国際教育院の3週間プログラムに参加しました。昨年までは2週間の参加だったらしいのですが、終わってみれば3週間で本当によかったと思いました。2週間だけでは、きっと物足りなく感じたように思います。

私はもともと韓国ドラマが好きで、韓国のアーティストも好きで、韓国に全く悪いイメージはなく、むしろとても行きたいと思っていました。大学に韓国への研修プログラムがあると知って、私は即行きたいと思いました。それが、研修参加のきっかけです。

私は、初の飛行機、初の海外、初の韓国であったため、何もかも初めてで不安と期待でいっぱいでした。飛行機は、行きは揺れがひどかったのと映画を見ていたせいで酔ってしまいました。また、仁川空港では迎えが来ていたのですが、他の大学と合同でバスに乗るために他の大学を待つのに1時間くらいも待たされてしまいました。初日は移動だけとはいえ、結構疲れてしまいました。

オリエンテーション、入校式を終えてのクラス分けテストは、筆記試験と口述試験があるのは知っていたのですが、筆記試験が韓国語で自分のレベルにあった問題の作文を書くというもので正直驚きました。何とかつたない韓国語で書きましたが、日本にいる間にもっと勉強しておくべきであったと思いました。

授業はクラスに分かれて行われました。私のクラスは日本人だけのクラスでした。県立大学の人はなくて、静岡や長崎、東京、新潟などの出身の人たちが一緒でした。授業はほぼすべて韓国語でしたが、先生が簡単な韓国語で話してくれたり、ジェスチャーを使ったりしてとても分かりやすいものでした。リスニングとスピーキングが中心の授業で、自分が学びたいものであるから、とても意欲がわいたし、日常生活で使えるものも多かったので、授業は全く苦痛になりませんでした。私のクラスは宿題が多いほうでしたが、テキストの文法の問題を解くもので、復習にもなり良かったです。

文化の授業は、私は韓国の礼儀や遊び、歌、ドラマを学ぶコースを選びました。食事の仕方や韓国の伝統的な遊びなど、今まで知らなかったことが分かり、実際に体験して肌で感じ、楽しかったです。

この研修では、2回現地学習がありました。1回目は利川陶芸村と韓国民俗村に行きました。2回目はNソウルタワー、ナンタ、景福宮を見に行きました。一番おもしろかったのはナンタで、料理をしながら調理器具で演奏したりするミュージカルのようなものでした。ところどころに笑いを誘うようなところがあって、予想をはるかに上回るおもしろさでした。現地学習は自分ではあまり行こうと思わないところを連れて行ってもらったので、とても良かったです。

寮は昨年と違い、リダベリ寮というところでした。大学までは歩いて10分弱で近く感じました。寮の前にセブンイレブンもあり、少し歩けばたくさんお店があったので、全く不便ではありませんでした。回基駅も10分ぐらいで着きました。ただ、部屋に洗濯機や電子レンジがないことが少し不便でした。また、シャワーがトイレと一緒に本当に狭い空間だったのが大変でした。

授業のある平日は遠くても明洞に行くぐらいで、あまり遠くには行きませんでした。宿題や授業の復習をほぼ毎日やって、夜ご飯はおいしそうなお店を選んで食べに行くのが日常でした。結構、まじめに過ごしていたようにも思います。しかし、これで韓国語を少しでも多く覚えられた気がします。

土日やチュソク（韓国のお盆休み）はいろんなところに行きました。江南やロッテワールド、弘大、梨大、北村韓屋村、光化門、仁寺洞、東大門、チムジルバンなど旅行ガイドに載るようなところにはほぼ行ったように思います。梨大は服が安い、仁寺洞には伝統的な小物があるといった特徴がそれぞれあってとても楽しかったです。ただ驚いたことは、チュソクは本当に休みだということです。日本のお盆とは比ではないくらい、お店はほとんど閉まっていて、人もあまり出歩いていなくて、観光客が多く集まる場所以外は空いていないという感じでした。これを見て、働く人や学生は休めてとてもいいと思いました。

トウミについても話したいところですが、私のトウミは忙しくて1回しか会えなかったので、この内容については省略したいと思います。

とにかく、とても充実した3週間でした。はじめは長いかとも思いましたが、終わってみれば早かったです。韓国に行って、韓国の良いところと悪いところがわかると同時に日本の良さもわかった気がします。普段はわからないですが、日本はきれいで、すべて丁寧で、礼儀正しいです。韓国はポイ捨てが多いし、トイレなども汚く、何においてもおおざっぱであったという印象です。また、車の運転が荒く、クラクションが絶えませんでした。店では店員が平気でスマホを使うこともありましたが、しかし、良いところとしては、地下鉄が約100円払えば結構遠くまで行けるのでとても便利でした。また、食べ物はどれも量が多めで、1つのものをシェアするのもあたりまえで安く食べることができたし、何よりどの料理もおいしかったのでよかったです。パンチャン（おかず）は食事のときに必ずついてきて、おかわりが無料でできたり、化粧品を買うと試供品がたくさんもらえたり、日本ではあまりないサービスが韓国では受けられてすごいとも思いました。

日韓関係について世間では騒がれていますが、韓国に行って悪化していると感じることはなかったし、お店では日本語で話しかけてくれる人も多く、日本人を受け入れている人が多いようにも思いました。必ずまた韓国に行きたいと思ったし、異文化を知るとはとても楽しく、韓国語が通じたときや理解できたときの喜びはすごかったです。この研修は人生においてとてもよい経験になったし、これからも韓国の文化にふれていきたいと思いました。また、機会があれば他の国にも行ってみたいと思いました。